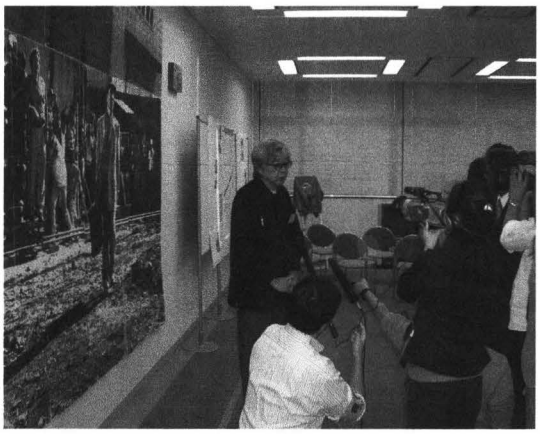
２００６．１０．１７
人・街・ながた震災資料室
発行人　寿　広文
編集人　武川泰恵・藤原美紀

人・街・ながた震災資料室ニュース

「神戸・ながた」からありがとう

のじぎく兵庫国体（スポーツ芸術）で開催した「阪神・淡路大震災の記録展―寅さん長田に帰る」は、9月30日から10月10日までの間、多くの市民の方の参加をいただいて無事に終了した。最終日には山田洋次監督もくらら べーかりーの石倉夫妻らと来場され、神戸学院大の学生らの主催で「囲む会」を楽しく催すことができた。



山田洋次監督のサインは「長田の人情　永遠に」

市民の方から提供されたパネルや、被災者の避難行動の地図などの手作りの資料を見ながら監督は「渥美さんは、草履で踏みつけてもいいんでしょうかね」と言われていた。（ロケは黙祷をしてから始められた。）

また、監督に長田区に来て頂いた記念にロケのパネルにサインをお願いしたところ、快く応じてくださった。少し細い字で「長田の人情　永遠に」と書かれた。

県立文化体育館では避難所日誌などを展示

バスケットボール競技会場となった県立文化体育館では、9月30日から10月2日まで記録展を開催した。各地から来られた選手や関係者は「あっ、寅さんや」と一瞬声をあげ、続いて震災のパネルや炊き出し釜などに見入っていた。

また同館は震災当時１，０００人が避難生活をされ、その時の日誌やメモ帳等を展示した。

近くの蓮生寺住職の石井弘宣さんは「大変な状態だったなぁ」と感慨深げに語られた。

あらたに　1月17日の写真等　寄贈される

*松本徳義さんより―妙法寺～長田区への徒歩通勤中、五位の池町より新長田方面を撮影した写真２点

*伊豆義子さんより―蓮池小学校避難所内の写真、報道ビデオ、書籍類　　**ありがとうございました**